

1. 経緯

- 本年6月のデジタル臨調における総理指示（※1）及び骨太の方針2022（※2）を踏まえ、行政事業レビューをEBPMの実践の場とするべく、試行版レビューシートの導入（EBPM的要素を充実）やシステム化の取組を実施。
※1）「約5,000の事務事業のレビューの方法を順次見直し、EBPMの手法の実践に繋げていくことで、事業効果の検証を行ってください。」
※2）「EBPMの手法の実践に向け、行政事業レビューシートを順次見直し、予算編成プロセスでのプラットフォームとしての活用等を進める。」
- 本年11月の「秋の年次公開検証」においても、政府のすべての事業（現在約5,000）にEBPMを展開するため、試行版レビューシートの分析結果等を基に、行政事業レビューの改善策について議論。

2. 今後の取組について（案）

（1）今後の行政事業レビューの見直しの方向性・・・詳細は資料2

行政事業レビューについて、3つの基本的方向性に立ってプロセス全体を抜本的に見直し、
来年3月を目途に実施要領等を改訂。

1 政策立案・改善や
予算編成プロセスでの活用を
前提に、横断的に見直す

- ・ 財務省や各府省が予算編成プロセスで活用できるように、レビューシートの作成単位と予算編成過程で用いられる単位を揃え、シートの見直し・システム化を推進。
- ・ 総務省と連携して、EBPMの実践にリソースを重点的に投入し、政策評価と一体的に効果を挙げる取組を進める

2 明確な役割分担の下、
令和6年度のシステム化を
念頭におきながら、計画的に取り組む

各府省

各府省推進チームによる
個別のシートの
品質管理を強化

行革事務局

- ・ 政府全体の品質管理を行うとともに、個別案件の伴走型支援を行って優良事例の創出・横展開を推進
- ・ 重点フォローアップを実施

3 実質的な議論に
集中できる環境を整える
（作業負担の軽減）

シートの見直し（EBPMに関する記述を充実、関連性の低い項目等は大胆に廃止）、システム化（データ入力自動化、検索・分析機能強化等）により職員の作業負担を軽減し、政策の立案・改善等の議論に集中

(続き) 2. 今後の取組について (案)

(2) 個別シートの重点フォローアップについて・・・詳細は資料3

- 行政事業レビューは、政府の全事業（現在約5,000事業（シート））で実施されているが、これらの品質管理を計画的に進めるため、まずは、①令和4年度に試行版レビューシートを作成した事業（128シート）について行革事務局から「改善に向けた視点」を示し、②うち30シート程度について、総務省行政評価局等と連携して、伴走型支援を実施するなど重点的にフォローアップを行い、改善の成果を令和5年9月に公表。

(3) 基金の再点検について・・・詳細は資料4

- 基金については、所管府省自らが、毎年度、基金シートの作成等を通じ、執行状況や余剰資金の有無など自己点検を行い、余剰資金の国庫返納を行うというPDCAサイクルを着実に回していくことが重要。
- 本年の「秋の年次公開検証」における議論の横展開を図るため、各府省に対して、全ての基金について、資金の保有方法、基金の監督体制、管理費の支出方法等について再点検を行い、余剰資金を国庫返納するよう求める。

3. アジャイルWG提言への対応状況 (報告)

・・・詳細は資料5

- 本年5月、「アジャイル型政策形成・評価の在り方に関するワーキンググループ」から、
 - ① 社会課題に適時的確に対応できる、より機動的で柔軟な行政への転換
 - ② 環境変化に対応しながら政策を改善するほか、経験のない新たな課題についてはトライ&エラーで精度を向上を実現するため、意思決定過程におけるEBPMの手法の活用など、具体的改革事項を盛り込んだ提言が出された。
- 同提言に盛り込まれた問題意識や具体的改革事項に沿って、行政事業レビューの見直しに取り組んでいるほか、本年7月に各府省に対する伴走型支援の仕組み（EBPM補佐官派遣、伴走型支援ネットワーク等）を導入したところ。引き続き提言の実現に取り組む。